



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	地域社会の生活実践に内在する資源保全のしくみ : 沖縄・奄美の自然資源利用から [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	金城, 達也
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第11632号
Issue Date	2015-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58745
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Tatsuya_Kinjo_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名： 金 城 達 也

主査 教 授 宮内 泰介
審査委員 副査 准教授 笹岡 正俊
副査 准教授 小田 博志

学位論文題名

地域社会の生活実践に内在する資源保全のしくみ
—沖縄・奄美の自然資源利用から—

今日、奄美群島および沖縄本島のやんばる地域は、日本政府が「奄美・琉球」として世界自然遺産への登録を目指している地域である。そこでは主に希少野生動植物や亜熱帯の森、サンゴ礁といったものが注目され、研究も自然科学的な研究が圧倒的に多い。しかし、そこは人が住む場所であり、人と自然との長い歴史がある。

本論文では、これらの地域について、長期にわたるフィールドワークにより、地域社会と自然との関係とその変化について研究したものである。そこで焦点となるのは、地域の人びとがどういう社会的なしくみで自然との間の持続的な関係（利用や管理）を取り結んできたか、その背景にはどういう日常的な実践があるか、また大きな社会変化の中でどうそれを維持しているか、その維持の社会的なメカニズムはどういうものか、といった点である。近年盛んになっているボトムアップの資源管理の議論を踏まえながらも、それを地域住民の日常的な実践を詳細に追うことから再構築しようとする試みでもある。

自然の変化と社会の変化を統一的に研究しようとする社会－生態システムの研究は、今日国際的にも活況を呈しつつあると同時に、多くの未踏の領域を含んでいるが、本論文はそこに新たな知見を加えるものである。

亜熱帯である奄美・沖縄におけるそうした研究はまだ少なく、本論文が対象とした沖縄本島やんばる地域と徳之島とはそうした研究がとくに少なかった地域である。詳細なフィールドワークにもとづく詳細な記述を含む本論文は、両地域内の多くのコミュニティの調査に基づく、面的に広がりのある研究であり、資料的な価値も高い。本論文が地域史や環境史を軸に描いている点も高く評価できる。社会－生態システムを動態として捉え、そのダイナミズムと持続可能性を地域の具体的な記述からボトムアップに考えている点、さらには、地域内の動態と大きな社会の動態の間の関係のダイナミズムも含め

ている点は、本論文を貴重な研究にしている。

審査委員会では、詳細なフィールドワークにもとづく本論文について高い評価がなされた。ただし、本論文について、詳細な記述の一方で多少記述が平板になっている部分があること、資源管理について調査地の負の側面についての記述に若干欠けているところ、「転換力」という用語の使用の妥当性に若干の問題がある点などが指摘された。しかしいずれも本論文の価値を損なうものではないことは委員会の一致した意見であった。

審査委員会は、以上の審査結果にもとづき、全員一致で、本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。